

ティーチング・ポートフォリオ

健康科学大学 健康科学部 人間コミュニケーション学科

准教授 堤 美智

1. 教育の責任

現代は、超少子高齢化期に入り、医療や介護をはじめとする、様々な領域での体制が見直されてきている。また、今日の医療・介護に対するニーズも多様化している。学生が医療系大学で学ぶことにより、変化する情報や知識をどのように扱い、それらを基に何ができるのか、自らが考える力を身に付けることが望ましい。

健康科学大学における教員の教育責任は、単に知識を教えるだけでなく、「人を育てる」ことにある。医療・福祉の現場で信頼される人材を育成するために教員は、教育の質・倫理・自己成長を常に意識して取り組むことが重要である。特に一般教養は、人として豊かに、そして社会の一員として適切に生きていくための知識と思考の総合力を身につけるとともに、それらを基礎に専門を学ぶ大事な知的土台であると考えている。

私は、一般教育教員として、健康科学部と看護学部の両学部にて、科目を担当している。2023 年度・2024 年は、健康科学大学看護学部において、総合基礎科目である「スタートアッププログラムⅠ・Ⅱ」「情報処理」「地域社会学」を担当し、さらに外国語科目の「英語コミュニケーション」を担当している。健康科学部では、「地域連携の理論と実際」を Omnibus で担当、「地域づくりとコミュニケーション」を担当している。両学部において、幅広い科目を担当し、教育に関わっている。

23 年度

科目名	時期		受講者
スタートアッププログラムⅠ	前期	必修 Omnibus	62 名
情報処理	前期	必修	62 名
英語コミュニケーション	前期	選択	4 名
地域社会学	前期	選択	10 名
スタートアッププログラムⅡ	後期	必修	62 名
地域連携の理論と実際	後期	選択 Omnibus	38 名
地域づくりとコミュニケーション	通年	集中 Omnibus	27 名

24 年度

科目名	時期		受講者
スタートアッププログラムⅠ	前期	必修 Omnibus	62 名
情報処理	前期	必修	62 名
地域社会学	前期	選択	2 名
スタートアッププログラムⅡ	後期	必修	62 名
地域連携の理論と実際	後期	選択 Omnibus	50 名

・授業外活動

本学での授業の他に、以下のような活動をしている。

- 1) 看護学部教務委員会（21 年度～現在に至る）
- 2) 健康科学部研究・動物実験委員会（23 年度）
- 3) 共通科目委員（23・24 年度）
- 4) 所属学会：日本農村生活学会会員，日本村落研究学会会(国際交流委員)，日本国際地域開発学会：(評議員・常任理事)
日本国際地域開発学会編集幹事（21 年度～現在に至る）

2. 教育の理念・目的

本学は、「様々な総合的問題に立向かうことができる問題解決力を備えた人材」を養成するため、「豊かな人間力」、「専門的な知識・技術力」、「開かれた共創力」の三つの教育ポリシーを掲げている。本大学の一般教養としてのディプロマシーは高い倫理性、幅広い教養、QOL の理解、協働コミュニケーション力、社会人基礎力、自己研磨力、などを目標に掲げている。

専門職を目指す学生に対して、豊かな人間性と社会的視野を育てる教養教育は不可欠である。人の健康を支える仕事は、知識だけでなく、相手の立場に立つ共感力や倫理観が問われるため、一般教養を通して、学生の理解力・判断力を身に付けられるよう基盤づくりに貢献したいと考えている。

3. 自身の教育理念と人材育成

本学の教育目的に幅広い教養を身に付け、豊かな人間性を養い、他者理解を深め、コミュニケーション能力を磨いていくと掲げている。それらを受けて、私は一般教養を担当している教員として、学生が共に学び、成長できるよう心掛け、学生自身の可能性に目を向け、能動的に学びを深めていけることを理念としている。大学にて学ぶ学問の知識は人間性を育み、他者と共生できる力をつけることができる。特に一般教養の知識は柔軟な思考力や異なる価値観を尊重する姿勢、他者と協働するためのコミュニケーション力が磨かれる。授業において、多様な視点から物事を判断できる力を養えるような学びの場を作れるように常に工夫している。また知識だけではなく、感性や倫理観、社会的立場に応じた責任感という人間力を磨き、他者と協働し、課題を見出し、それらを解決に導けるよう、自らの判断と決断に基づき、行動できる人材を育成したいと考えている。

4. 教育の方法

現在、一般教養分野の准教授として、基礎科目であるスタートアッププログラムⅠ/Ⅱ地域社会学、地域連携科目を中心に情報処理、情報リテラシー、英語コミュニケーション

ヨンの教養を担当している。大規模な大学から小規模な大学までの幅広い経験を活かし、臨機応変に学生に合わせた教育方法を取り、自身の知識を学生の求める形で提供するように配慮している。授業では、平常点・小テスト・レポート・発表などを取り入れ、「プロセス」を重視した評価方法を取っている。国際社会に適応できる社会人として育ていく力を身につけるよう、学生にも相手の立場になって話し、自分の思いを伝えるコミュニケーション力が習得できる力を養えるように指導している。

一例として、講義では、終了時に知見と質問を書かせ（記述力を養う）次の講義で質問に答え、もしくは毎週授業開始時に5分程度の小テストを行うことによって、日常の予習復習を習慣化させる工夫をしている。特に地域社会学の指導では、「現場から学び・現場に答え、自らの経験を生かし・自らを問い直す」姿勢で指導をしてきた。臨機応変に学生に合わせた教育方法を取り、自身の知識を学生の求める形で提供するように努めている。一般教養を「生きる力」として捉え、職業倫理や対人スキルの育成を促し、キャリア形成を意識した教育方法を常に考え、指導に当たっている。

・ Teams を活用した授業の工夫

Teams を活用した授業は現在も継続しており、パワーポイントを使用し、学生と画面共有することで、授業内容を対面授業と同様に理解できるように心がけている。質問等があればチャットや音声にてやり取りをしている。発言しづらい学生でもリアクションボタンやチャットを使って参加できるように配慮している。また課題機能を利用し、その日の授業内容からの Reaction paper を提出することによって、学生の理解度を高めている。そして、授業で用いたパワーポイントや関連資料については、Teams 内にてアップロードし、常に学生が見直しをできるようにしている。

5. 教育の成果・評価

各学期末の授業評価アンケートを活用して、授業内容の反省点を振り返り、次年度の授業内容に活かすようにしている。医療や福祉はチームで行うことが多いため、異なる専門性を理解し合う力、伝える力、聴く力が必要になる。その土台となる「対話的な学び」や「協働型の課題学習」を授業に取り入れることで、実践的な力を身に付けられる教育を心掛けている。

例えば、スタートアッププログラムⅠでは看護学部の教員を含めた omnibus 授業を行っている。看護師になるための基本知識を身に付けながら、大学で学んでいくために必要なスタディスキルも身に付けていくため、30回の授業内容となっている。

受講した学生のコメントとしては、「大学で学修していく上で大切なことや社会に出た後に必要となることを学習できた」というコメントが多くある。それらを受けて、次年度学生の学ぶレベルを上げるために、人とのコミュニケーション力を上げることに重点をおく年度もある。レポートや論文を書くために重要な、文章を書く力については、

教員の要求するレベルまで引き上げるために、基本に戻り、文と文章の違いなどから丁寧に説明し、わかりやすい指導を心がけている。

来年度の学生に対しては、彼らの能力を引き出すためにそのレベルに合わせた授業内容を再構築し、臨機応変に対応するよう心掛けている。

・地域社会学では、日本農村の文化、暮らしの変遷をたどり、地域社会を（歴史的、文化的、構造的に）捉える力を養い、保険計画や健康指導を行うための知識と実態把握ができることを目指して行ってきた。学生自身が住む地域社会を客観的に捉える力を養い、近代化と都市化にともなって変化をしてきた地域の実態を概観している。

受講した学生のコメントとしては、「意見を述べられる環境や考えを広げられることが出来る内容でとても面白かった」とある。専門的な授業内容になるため、常に学生の学ぶ環境を考え、じっくりと授業内容を聞けるよう資料を授業前に Teams に上げておくようにしている。学生が住んでいる地域というコミュニティを、新たな視点から考えられる地域社会の面白さを理解できるように、学生たちの生活と密接した内容を入れ込み、理解しやすいように心がけている。少子化、高齢化、混住化など、看護にも関係のある内容を入れ込み、次年度に続く専門分野授業にも関連する内容を考慮している。将来、看護師、保健師になる専門的知識の基礎力としての地域社会の把握、地域保健計画づくりの基礎力に繋がる内容である。

6. 今後の目標

短期目標：授業資料・内容の改善

- ☆ 一般教養は、専門分野に進む前の段階として、学生一人ひとりが社会人・医療人として必要な「考える力」「伝える力」「共感する力」を育てることが重要な役割と考える。学生の基礎力と人間力を高められるように論理的思考力や表現力を養える授業を構成し、汎用的な力を身につけられるように授業内容を毎年更新する。
- ☆ 教育の質の保証と改善については、授業評価アンケート結果や FD（Faculty Development）への参加を通じて、学生の主体的な学びを促進できる教育の場を見直し、より良い環境へと改善に努め、実行する。
- ☆ アクティブラーニングの推進を図る。グループディスカッションやプレゼンテーション、ディベートなどを通して、学生が主体的に学ぶ環境づくりに取り組み、学生自身の成長を実感できる工夫をする。
- ☆ 国際社会に適応できる社会人として、教員自身の知識を学生の求める形で提供できるよう配慮する。

長期目標：リベラルアーツの充実

- ✧ 健康科学大学において、一般教養科目が果たすべき役割は多様と考える。文学、哲学、社会学、農学、環境など、さまざまな分野から健康や人間を捉える視点を提供し、学生の視野を広げる教育を目指したい。
- ✧ 大学の知的資源である研究や講義を通して、地域社会と連携できるよう貢献する。また、学生にも地域との関わりを促すことで、地域の課題を知る機会や新たな視点を持つ学びの社会的意義を実感してもらえるよう工夫する。
- ✧ 自己研鑽と研究活動の推進として、これまでの研究を学生と共に継続・発展させ、学術成果を教育に還元できるよう努力する。